東京都家庭薬工業協同組合会報

第20号

かていやく

昭和46年7月5日

題字・先代 藤井得三郎氏

新年度に際して

東京都家庭薬工業協同組合
理事長
津村重舎

わが業界はこの三、四年来次々と問題が投げかけられて参りましたが、今年もいろいろと問題が起りそうです。このようにして起ってきた問題点をたどってゆくと、点が線になり、一つの方向が解るのだろうとは思いますが、今言い得ることは安全性とか有効性とかの決定点をどうするのかということです。前にも一度書いたように思いますが、今漢方生薬というかたちで多くの人の関心と研究の対象になっているものも明治初めの新旧の論争から旧である東洋医学としての漢方が医学の中から排除され、今日見直されてきた経過からすれば歴史的には方向が解るでしょう。

唯、かつての化学の水準が未だその当時なかった分野を広めつつある現在のそれとは全く同じであるという訳ではありませんが、物の考え方なり、その歩むであろう方向が解ると思われます。

ではどうわかるのか率直に言わせてもらえば、決定は仲々困難な問題ではないかという事です。決定をしながらその積み重ねで解決をして行くということではないでしょうか。事人命に関る事であるのでその点が重大でありますから、慎重の上にも慎重であるべき筈です。臨床医学界でも次々と新しい学説が発表され、専門医ですら勉強に忙しい時なので薬が効くのか効かないのか、安全であるかどうかという事は、今は決められても将来迄決定することはできないのではないでしょうか。とすれば企業の方からすれば将来の解らないものは企業であり得ない訳です。

このように考える時、麻薬とか致命的なものは排除すべきですが、細かい部分については自由であるべきではないでしょうか。現在の様に臨床例を幾つの病院で何例出すべきであるという事をやってもサリドマイド事件の如き痛ましい過失もある訳ですから、今までのように長所ばかりを宣伝するのではなく、これからの宣伝は欠点も強調すべきではないでしょうか。

あやめ　玉置弘三氏

そして組合としては注意書を良く読んで下さいという事、注意書には解り易く誤解のないようにするにはどうしたら良いかという話合いが大切になってくると思います。

尚、家庭薬は常にその製品に傾けている情熱と努力を一般の人に理解してもらうべく努力すべきではないでしょうか。

どう考えてもこの長い史的存在こそ必要性と安全性を証明するものであり、世間の要求に答えているものであるということを誇りとして、尚一層の向上を計るべきでありましょう。

（津村順天堂・社長）

座談会

今年の計画と直面する家庭薬業界の問題について語る

〈出席者〉

総務委員会　藤井得三郎
財務委員会　中村　源三
厚生委員会　市川　一雄
広告委員会　竹村　鐵郎
労務委員会　友田　真二
薬事委員会　藤井　康男
販売対策委員会　津村　重孝
（司会）弘報委員会　堀内伊太郎
事務局長　園部　明

（発言順）

堀内　皆さん今日はお忙しいところおいで下さいましてありがとうございます。組合もここにきまして、各委員会が非常に活発な動きをするようになりました。それに伴いまして、費用も段々かさんでくるわけですが、ちょうど四十五年度の時期も終り、新しい年度が先月から始まったわけです。この時期に委員長の皆様方にいろいろ本年度の計画とかあるいは抱負などをお話しいただいて、組合員に伝えたいという主旨で、今日の会を開いたわけでございます。非常に問題が山積しておりますので、なかなかわずかな時間ではお話がつきないと思いますが、まず総元締めである総務委員長の藤井副理事長さんから昨年度の動きとか、本年これからどんなふうにしていくかということを……

藤井（得）　総務委員会というのは、どういう仕事があるというわけではないのですが、各委員会のいろいろ申し出があって、それをまとめるということが総務委員会の役目だと思います。またそれによって総務としては、いわゆる組合員一同の利益になることなら、それを実行に移す。これは財務委員会とも非常に関連が強いわけであります。昨年度はいろいろ財務委員会と共同してやってまいったわけですが、各委員会の活動が昨年度はあんまり活発ではなかったというように、私には思われたのです。それは費用の点についてあまりお使いにならないから活発ではないと思われたのですが、しかしながら費用を使わなくても仕事はやっているんだと言われればそれまでですけれども。総務委員会としては財務のほうにお願いして取った予算をできるだけ有意義に使っていただければいいと思います。総務部としては全般的に見て、自分の考えだけでそうしたいという計画はないわけでございます。各委員からの申し出があれば、それを取り計らいたいという建前で今後もそういう方針でいきたいと思っているわけであります。それから家賃、不動産収入があんなにあるとは予想もしなかったわけですが、幸いにして年間を通じて家賃が入ったわけで、それで支出を非常に制限してきたわけですが、思わぬ利益が出た。これをいかにして有意義に動かしていくかということが重大問題ですが、来年度はおそらく現在のままの不動産収入というものが持続できると思いますから、その点から予算を決めたい。これは明日会議を開きますが、それによって各委員会の活動ももう少し活発にしていくということで……。まあ総務としてはそういう考えであります。

堀内　ありがとうございました。予算が余るということは結構なお話なんですが、ただそれが各委員会の活動が少なかったということでは問題が残ります。

堀内伊太郎氏

藤井（得）　いや、それはそういう意味合ではなくて、各委員会で要るべき費用も提出なさらない場合もあるんですよ。遠慮はいりませんからどんどん請求していただく……。

堀内　協同組合なんというのは大体皆の負担で運営しているので、どっちかというと足りないがちになるんですよ。ところがこの組合は不動産収入というものが非常にある。その点運営が楽だということで成功していると思うのです。その点につきまして、財務の中村さんひとつ御意

見がありましたら……。

中村　財務委員会としては、要するに皆さんの会費でもって、ただいまおっしゃったように、まず基本的には皆んなの大事なお金をお預りしているから、それを皆さんのよりプラスになるように使うというような財政をして、それによって事務局と理事会、委員会の費用を割振りながらやっていく。それで事務局とか理事会等は、大体一定しているのですが、さっき総務委員長がおっしゃられたように、委員会の費用をいかに割当てるかという点、活発にするには費用がかかる。それには財源があればやりやすいということで、今まではともすれば組合の財政というものが足りなくて不足がちだったのでなかなか財務委のほうにそれを言いにくかった点が、先程藤井さんがおっしゃったようなことで明るい財政の下にやっているんですから、もうちょっと委員会の費用を使って皆んなで協同事業でなくちゃできないような行事を起こして、活発にしたいというのが、今の現状じゃないかと思うのです。

堀内　財務の運営宜しきを得まして、各委員会が充分に動けるだけの費用も確保できそうだという明るいお話でございますが……。

藤井（得）　要するに会計に余裕ができれば何もそう組合に金を溜めておく必要がないという議論も出てくるわけです……。

堀内　部屋代の値上げというのは全然しない……。

園部　一応特別の事情のない限り、五年契約になっておりますから、値上げはちょっと困難……。

藤井（得）　五年間はまあ特別の事情がない限りという裏付けがあるわけです。五年間契約しておいて値上げをしないというのは、ちょっとどうかと思う。だから契約文書の中に……。

藤井得三郎氏

園部　うたってはいます。一般の家賃と比較して、特にアンバランスになった場合には折衝で値上げをする可能性はあります。

藤井（得）　本年は固定資産税の値上げがありますから、やはり負担金を出してもらはなければならぬ。土地は約三割上っておりますからね。結局ある程度は家賃は上げてもらわなければならないということが言えるわけです。そこは計算してみて下さいよ。

市川　固定資産税は組合が使用している面積については非課税なんです。お貸ししている分だけ課税される。

園部　堀内さんの名を上げては何んですがおたくのビルはやはり上げているでしょ。

堀内　上げています。（笑）しかしなかなか上げにくいですね。

藤井（得）　いま、どのくらいで貸しているんだったかネ。

園部　各階二十坪ちょっと欠けるんですけれども、九万です。坪当たり約四千五百円……。

市川　しかもこれは組合の唯一の収入源ですからね。やはりそういう点も、今委員長が言われたように検討してみる必要がありますね。

園部　あまり高くて逃げられてはね。（笑い）

藤井（得）　しかしこの辺では四千五百円は安いですよね。

堀内　管理費はかかっているわけですか例えば清掃とか……。

市川　ええ。そういうのは共益費としてもらっているわけです。それは十二分にいただいております。（笑い）

藤井（得）　いいお客さんですね。相手は大きいし。役所の方も使っていますね。

園部　ええ。時々使っているんですよ。こういうものを持っている団体というのはほかにはちょっとないんじゃないんですかね。メーカー団体で土地、建物を持っているというような団体は……。

中村　組合ではあるんでしょう。

園部　組合ではあるけれども、薬業関係では非常に少ない……。

堀内　それでは次に厚生委員会ですけれども、この組合が非常に和気あいあいとして団結しているというのも、厚生委員会が非常に大きな力になっている。いつも有がたく思っておりますが、先ほどもお話があったように、組合のお金を使わないで、御自分達のポケットマネーまでお出しになっているようなこともある。そういうことについても、この席を借りてお礼を申し上げます。市川さんひとつ厚生委員会の今年の計画を。

市川　組合の金を使わないということでございましたが、実際は細か

く請求して頂いておりますので、決して組合の金を使っていないということはありませんから、その点は御安心いただきたいと思います。（笑）

藤井（得）　それはまあそうおっしゃるけれどもね。実際筋の通ったものは請求しておられるでしょうけれども例えばかりに旅行に行く場合前もって検分しに行く場合、全額は無理かもわかりませんが、ある程度の補助金というかそういうものは、御相談なさっていただいたほうがいいのではないかと思いますね。

市川　今日は私委員長、副委員長が都合が悪いので代わりに出て参りましたが、厚生委員会は毎月組合の理事会がある日、第二金曜日の午前中に会合をしておりまして、私も出ておりますので、大体厚生委員会の活動についてはわかっていますが、今までの結果として委員長に代って申しますと。当組合員は六十数社が組合員でございまして、実際に常時おめにかかるのは理事とか幹事とかそういう役員の方々には定例の理事会、その他において顔を合わせまして、お互いに存じ上げておりますが。その他の組合員の方とは普段お会いする機会がありませんですから、なかなか顔を合せましても、どこのメーカーさんだろうというようなことがしばしばあります。そういう意味におきましても、厚生委員会ではできるだけそういう役員でない組合員の方々とも普段の親睦を計ってまいろうというようなことを、真剣に考えておるわけです。それで、現在厚生委員会で取り上げておりますのは、組合の旅行会、それからゴルフの会、それと碁の会をやっております。その他厚生に関すること。

市川一雄氏

旅行のほうは先ほど予算の点も出ましたけれども、厚生委員会で毎月千円ずつ積立てまして、春秋二回旅行の下見に行っております。これは下見の若干は組合のほうから補助していただいておりますが、厚生委員そのものが下見ということで、ある程度お互に委員だけでも楽しんでいるということであります。昨年は六月に浜松に行きまして、十月に三重県の賢島に行きました。この二つの旅行におきましても、もっと多くの組合員が参加していただきたいという気がいたしました。大体両方とも参加人員が四十名足らずというところが現状でございます。実際にはもう少し普段出てこられない組合員の方々も旅行に参加していただきますと、なお有意義ではないかと思います。今年はとりあえず六月の二十七日、二十八日の両日に亘りまして箱根の天晴園に決りました。それで二十七日は日曜日でございまして従来はウイークデイを考えていたのですが、なかなか集りが悪いので日曜日、月曜日という日を選びまして、日曜にお越しいただくならば、ある程度皆さんも自由に集まれるのではないかと、旅行の時には各委員会のメンバーにもたしか通知を出しておるわけですね……。ところがその委員会のメンバーの方々あまりお越しいただかないので、そういう点からもひとつ各委員会のメンバーの方々にぜひおいでいただいて、そういう機会にお互に顔合せができるような方法をとっていただければということです。それからゴルフの会と碁の会をやっておるわけですが。現在ゴルフは奇数月に開催しておりまして、年六回やっております。それから碁の会のほうは四ケ月に一回でありますので、年三回実施しております。それでゴルフのほうのメンバーは総員で三十四名でありまして、碁の会のほうのメンバーが総員で現在二十七名であります。ところが実際においでになる方々は、大体毎回ゴルフのほうは、昨年の例で取りますと最低は十二名、最高で十九名、大体一回平均十四名ぐらい。碁のほうも大体同じような人員でございまして、比率からしますと四十から五十ぐらいの参加人員ということでございます。その点も例会の参加人員が多少少ないのではないかと考えまして、過般からいろいろともっと出ていただくようにするためには、果して日時の選定がまずいのか、それともコースの選定がまずいのか、いろいろアンケートも取りまして、皆さんの御希望も聞いたわけなんですけれども、アンケートだけではなかなかその問題が解決しないようでございます。そこでいろいろと参加していただくように、各委員のほうでもひとつお働き願えればと考えます。それとゴルフの会とか碁の会にお互いに顔を合せまして、全然知らない人とも顔見知りになるし、それがまた仕事の上にもつながるということになるんではないかと思っておるわ

けであります。今年もそのゴルフの会と碁の会は活発に会員をもっと増強いたしまして、進めてゆきたいと思います。それからそのほかに実はこの薬業界だけで健康保険組合というものがあるんですが私どもの組合員でその薬業健康保険に入っていらっしゃらないメーカーが二十数社ありまして、それらの方々にぜひこういう機関がありますから、薬業健康保険組合に加入していただくように、昨年紹介をしたわけであります。その中で特に鈴木日本堂さんが三百人以上の従業員で、それがいまで薬業健康保険組合に入っていらっしゃらなかった。私薦めまして、昨年の秋に加入していただきました。それも厚生委員会の取り上げたよい結果ではないかと、今年もなおそういうふうにそれらの機関を利用できるような方向に進めてゆきたいと考えております。

津村　強制的に入らなければならないのですか。

市川　そうじゃないのです。まあその薬業健康保険組合というものがあるんですが、特に薬業健康保険に入りますと、例えば家族療養費が政府管掌では今半額ですけれども、それに付加給付があるわけです。家族の方が療養されますと、半額負担して払うわけですね。将来は大体九割ぐらいは一割程度の自己負担で済むような、今年度はそうなると思うのですが。そういうような特典があるのです。この間トクホンさんの従業員の方々に聞きましたら、薬業健保組合に入ったので、家族療養費があるし、非常に助かりますというお話がありました。

藤井（得）　大きなところで入っていないところはありますか。

市川　大体大きなところは入っていると思います。

園部　三宝さんも入りましたし。

市川　これも厚生委員会が取り上げましたね。皆さんにおはいりになるように取り計らったわけです。

堀内　ありがとうございました。従来この家庭薬組合というのは、理事会が主でしたので、理事の方々はしょっちゅう顔を合わせるんですが、会員全般の方となかなか親睦ができなかった。そういうことでこの組合費というものも一般会員の方は、こういう費用をお出しになるのにどんなお気持かということで、いつも気にしていたのですが。厚生委員会が非常に活発に動いてくださるんで、最近は組合員全体が顔を合せる機会がふえまして、そういう点でも組合費を出す上に抵抗が少なくなったような気がいたします。厚生委員会の御活躍が組合のプラスになっているように思っております。

次に広告委員会の竹村さんにお願いしたいと思うのですが。最近広告関係は非常に難しい問題があると思うのですが、官庁との折衝と言いますか、交渉が多いと思います。昨年も大変に太田委員長さんほか皆さんお骨折りでございましたんですが、本年も大変な年になると思います。ざっとひとつ……。

竹村　竹村でございます。太田広告委員長が急用で出席できなくなりましたので、私が代ってださせて頂きました。本年度の広告委員会は大局的な立場に立って、より有効な家庭薬の広告活動の実施に努力するのが最大のポイントであると思います。ご承知の通り医薬品の広告につきましては、世論等の動向からきびしい姿勢をとることが強く要請されているわけでございます。したがいまして指導当局のご方針をよく伺いながらまた日薬連の広告審議会とも連絡をとりながら、家庭薬の広告活動が円滑に実施できるように努めて参らなければならないと思います。そのほかの事業につきましては、昨年と同じようになるんではないかと思っております。大変簡単でありますが、広告関係の問題につきましてはのちほど……。

竹村鍈郎氏

堀内　そうですね。。ありがとうございました。何んにしましても非常に問題を多く抱えております委員会でありますので、本年もよろしくお願いいたします。

次に労務委員会でございますが、歌橋委員長がちょっとお仕事の関係で遅れておりますので、代りに友田委員にお願いしたいと思います。

友田　労務委員会は四十五年度は非常に活動が不活発でございまして、その点いろいろ申しわけないと思っております。御承知のように人件費がますます上っている。それに従っていろんな問題がふえておりますので、労務委員会といたしましては、一昨年来実務者の方々で小委員会というものを強化していこう。そ

の担当に当っておられる方々と裸で話合うことで大綱方針を決める労務委員会と、具体的事例の解決、情報交換を定期的に行う実務者の小委員会という二本立てできておるわけであります。いずれにいたしましても労務問題というものが、今後の企業の成長に対して、非常に大きな影響を及ぼす。かといって各社各社それぞれの事情がございますので、一般的に公表されておる資料ではなかなか処置しきれない問題が多いということで同じ立場にある者でなるべく会う機会をふやして御相談をし得る態勢をつくるということでやっております。また参考文献というものも皆さんに見ていただけるようにするということで、組合の会議室に図書棚を置かしていただいて、そこに最近の情報を集めてご活用願うということで、本年度の計画に入っております。委員長がおられませんのでまたのちほど委員長のお考えも加えて……。

友田真二氏

藤井（得）　それに対する費用は予算の中に入っておりますね……。

友田　予算の中に盛込まさせていただいております。各社それぞれお取りになっておると思うのですが。その中で特に参考になりそうだという文献を書籍なんか金額の高いものもあるでしょうから、そういうものは組合で買っていただいて皆さんに御利用いただきたいということで……

堀内　ありがとうございました。委員長がお見えにならないために連絡が十分に行き届いていないと思いますので、のちほどお見えになりましたら補足していただくということにいたしまして。

次に私のところ、弘報委員会から一応お話を申し上げます。本来ですと一年に四回〃かていやく〃という機関紙を出さなければならないわけなんですが、これが三号しか出しておりません。原稿の集まりが悪いということを申し上げますと何か逃口上になると思いますが、どうしてもそれがひとつの原因であります。できるだけ早め早めに原稿をいただくようにしているのですが、どうもその点が十分でなかったために三号しか出しておりません。その代りと言っては何んですが、広告委員会のほうから第二回の広告統計資料というものを出しました。これは第一号に続きまして……第一号は一昨年に出ておりますので、その後いろいろまた資料が入ったり、古くなったものは新しいものを加えるということで貴重な資料が出ております。それを印刷いたしまして、結局それを入れまして、まあ大体予算に見合うように四冊の機関紙が出た格好になるわけです。そのほかに組合名簿を出しております。これも前の名簿の発行が一昨年になりますので、やはり毎年出したいところなのですが、予算の関係もあり、そうもいきませんので、昨年の暮に発行いたしました。大体弘報委員会は機関紙の発行ということが中心になっております。本来ですともっと広い意味の広報というものを考えなくてはいけないと思いますが、そのへんまだまだ弘報委員会勉強しなくてはいけない余地があると、私自身も思っております。委員の強化ということも本年はひとつ考えていきたいと思っております。何んにいたしましても編集の経験者であります委員が二名ほど抜けられましたので、ちょっと手薄のきらいがありますので、これを補うことを考えております。そのために費用も多少かさむのではないかと思いますので、そのへんは総務、財務の委員長さんに御考慮いただきたいと思っております。

次に大変にこのところ問題の集中しております委員会でございます薬事委員会。なかなか問題山積でございますので、いずれまたこのあと当面する大衆薬の問題という時にもお話が出ると思いますので、まあざっと昨年四十五年の経過、それから四十六年の構想などをお話いただきたいと思います。

藤井（康）　かいつまんで申しますと、皆さん御承知のように現在医薬品の処方の再検討ということが、現在の動向からしても避けられない。大衆薬の処方について、われわれの業界が非常に既得権を持っている医薬品が多いのですが、そういうものもここ数年来医薬品についてのトラブルが多かったし、社会一般の批判も強まってきたために、アメリカの傾向なんかでも有名家庭薬の処方といえども、そのままでは安泰とは言えないという状態になってきております。これは大役になってしまいまして、責任を痛感しております。去年は大衆薬の製造指針という

改訂がございまして、一番初めに風邪薬二番めに鎮痛剤、この二つの処方について、医薬品製造指針というものが書き直されまして、今まで使っておりましたアセトアニリドの処方は使えない。一口で言いますと大衆薬に対しまして、非常に厳しい規制を法律の上でうたいだしてきているという情勢がある。それに対して当然厚生省のほうからもある程度の業界の意見も照会しておりますが、その時に家庭薬の有志として、ハッキリした主張すべきものは主張していかなければなりませんし、これも非常に問題が多くなるわけです。いま申しましたように、かぜ薬、鎮痛剤に関しては東京の家庭薬ではさしてあまり問題になる製品がなかったわけです。表面に問題が出てきていないので、あまり感じておらないだろうが、規制というものについては、従来考えられなかったぐらい非常に処方がしにくくなってきている。特に新規の処方についてはほとんどもう決ったものの中でしかつくることができないというふうになってしまいました。これは当然今の二品目に加えまして、皆さん方の主力製品である各社の製品というものにも及んでくるのは時間の問題だと思います。それに対する対応策を考えておかなければならないというのが、われわれの問題であります。私これを引受けて大変だったと思うのですが、幸いに強力なメンバーを皆さんが選出して下さいまして、特に家庭薬の場合に日薬連の議論の場でも、厚生省の場でも生薬類の問題が出てまいりますと、すぐ家庭薬の意見というようになってくる。そうなりますと、われわれ不勉強ですので、どの程度までデーターをもとに

藤井康男氏

協力していったらよいか。これからも広がってまいりますと、勉強がまにあうかどうか非常に心配しております。そういう意味で何しろ家庭薬のメーカーの品物の数にしてみますと非常に多くて、先日一度総ざらえのリストを作ったのですが、まだ全部当り切れていない。この薬事委員会というのは、ほかの委員会と違いまして、表立ってこちらから何か先がけてやっていくという性質のものではありませんけれども、こういう事態になりますと、消防自動車のサイレンではありませんが、事件が起きてからではまにあいませんので、心配な向きはすべて手を打っていきたいと思っております。そういうことにつきましても、われわれのほうで調査が行き届きませんので、家庭薬報をお読みになったら、薬業界の関係のことで不安なことがありましたら、先がけて薬事委員会のほうに、できるかできないかわかりませんが、訴えていただきたいと私は希望します。その製品の中にアセトアニリドを配合なさっていたメーカーさんが随分ございましたが、情報不足のためにギリギリになるまで多寡をくくっておられました。しかしこの厳しい規制になりますと、明らかにその影響を受けるということで、非常に残念なことになってしまいました。そのようなことが、われわれのほうでも起こらないように、私どもこれから特に生薬に関するデーターを出して、われわれわからない点もあると思いますが、何かありましたら、どんどん申し出ていただいて、それをたたき台にして、一つの主張点というものを出していきたいとそう考えております。

堀内　ありがとうございました。ただいまのお話のように毎日新しい問題が出てくるような時代でございます。薬事委員会は最近非常にメンバーを強化いたしまして、その点大変充実した委員会になっております。なおまたこの組合では小さなメーカーさんも随分入っておられますので、そういう方々は、官庁の取締りの問題に対しましても、十分に理解できない、手が回りきらないというようなことがあるわけですけれども、そういう方々のことまでよく考慮されて、メンバーを、そういう小さなところからもお集めになる。あるいはデーターをお集めになるというお考えのように承っております。非常に結構なことだと思います。今後もぜひこの組合の中心的委員会としてご尽力お願いしたいと思います。

最後に真打と申しますか、これこそ問題を多く抱えております販売対策委員会でございますが、津村副社長さんは大変お忙しい身体で、先程まで組合において記者会見をやっておられましたが、ただいまこの会に御出席下さいました。さっそく本年の御方針について伺いたいと思います。先程申し上げましたように、

これからの問題ということについては、あとで御検討いただきたいと思いますが、ざっと本年の方針をお願いいたします。

津村　そうですね。販売委員会は大変だというお話がございましたが、事実今のところは多忙でございますが、盆と正月がいっしょに来たような人変さが過ぎますと、実はこれからの一年間は、私はそういう意味ではあまり大変じゃないんではないかというふうに見ております。そういう意味では山を過ぎたのではないかと、私個人の考えでありますが思っております。そういう意味で今年は一応安定期に向う業界の対策ということに重点をおかなければならないとそういうふうに考えております。今までどおり流通過程を主体にしたような講演会というものに最重点をおいてゆきたいと思います。これは三年めに重点をおいて、今年で二年めになりますが、毎年相当皆さんの関心を得て、このへんでまた新しい講師なども捜して、ほんとうに皆さんのお役にたつお話をしていただいて、それによってわれわれの主旨にしてゆきたいと考えております。安定と申しましても、これはもちろん日常的な安定でございまして、一年、二年先か、あるいは流動的かもしれませんけれども、私の感じでは今年一年ぐらいは無事平穏に過ぎるのではないか、いや過ぎてほしい。（笑）こう思っておる次第であります。それと関連いたしまして、問屋の皆さん方との懇談会をやる予定でございましたが、とうとうできませんでした。この一年はぜひやってゆきたいと思っております。というのは大体問屋さんの数も多少減ってまいりまして、お互いの間の過当競争を除くには、非常にいい機会だ、しかし、過当競争を除くには問屋だけではなかなか無理でございますので、皆さん方の態勢もだいぶ整ってこられておりますので、皆さん方とその点についてもお話し合いしてゆきたいと思います。これは一と月おきに販売委員会をやっておりますので、先程堀内さんからお話がありましたように、組合員の企業格差ということを考えまして、組合の内の大きなシェアを持っておる者だけのためでなしにもっと広い範囲の皆さん方に役に立つにはどうしたらいいのかというようなことを頭においているわけです。実はそこまで実績は上っておりません。そのために委員会の内容を公表したほうがいいのだという説もありますし、また委員会の内容を公表するまでもなく、それぞれの委員会がやっていらっしゃるように、われわれも内部情報の交換をしたほうがいいのではないか、こういう委員の御意見もございます。このへんをどうしてゆくか、これが今年の課題ではないかと、皆さんからお力を拝借してお役に立つ委員会になればと思っております。

津村重孝氏

堀内　ありがとうございました。

藤井（得）　再販の問題はどうですか。

津村　再販ですか。再販の問題は一応山を過ぎたんですが、秋からもう一度ぶりかえすと思います。ただ家庭薬の皆さん方非常に姿勢が正しいので、おそらくひっかかるようなことはないんじゃないかと思います。もうこのへんでわれわれの姿勢が正しいということを外に打出していいのではないか。今まで少し遠慮し過ぎました。直販さん、新薬さんの、ある特別の方々でありますけれども、少しお行儀の悪い、いわゆる過当なマージン、リベートを出しておられる方のことを、少しかばい過ぎた傾向がある。もっとハッキリ画然として、家庭薬は正しい姿勢でやっているんだということを打出していかないと、まあひっかかる恐れがあるという気がいたします。再販の問題については、われわれが文句を言われる恐れはない。まあ皆さんシェアが高いので寡占のほうで言われる恐れがある。この点だけを十分御注意下さって、寡占の時に対策をたてる。特に数社寡占になる場合のカルテル、この点を突いてきて再販からはずしてゆこうというような傾向が起こる。その点は十分御注意下さい。これさえ御注意いただければ再販の問題は、もう当分大丈夫だと思います。私個人の考えでありますが。シェアについてひとつの考え方を持っているんです。店頭に行ってたくさん並んでいれば、これは寡占ではない。どの店頭に行ってもビールで言えばキリン、アサヒ、サッポロしかないと言うのでは寡占になる。そういう意味においては私ども

の家庭薬は寡占ではないと思っております。（笑い）

堀内　今再販問題が出ましたので、このへんからひとつ当面する大衆薬業界の問題についてという方へ入ってゆきたいと思います。最近新聞紙上を毎日賑わしております物価問題で消費者の力というものを、強く感じました。主婦連あたりが非常に騒いでいる。もちろん再販問題が中心になっているわけでございますが、クスリがきくかきかないか、この判定をしろというようなこと迄言っております。このへん藤井さんどうなんでしょうかね。

藤井（康）　さあねェ。この間実は組合のほうから薬剤師会の総会で家庭薬の近代的役割という演題でしゃべれということで、あわてて勉強して九州に行って話をして来たんです。その時に勉強しながら思ったことなんですが、家庭薬という言葉は法的にそのひとつのジャンルではないか、非常にあいまいな範囲があります。そうすると一般の新聞なんかで家庭薬というと、家庭で使うクスリとなっちゃう。ホームランをボンボン打てば売れるクスリでも、みんな薬局から買ってきて自由に家庭で飲めるから家庭薬というふうになってしまう。ところが今までの歴史的な過程を見てみますと、売薬取締規則の基本方針というのは、無効無害主義ということなんです。無効でもいいから無害なら許可すると……ぼくは思うんですが、大衆薬としては最低線の正しい姿勢だと思う。というのはクスリの効果なんかは、お医者さんが使うような強力なクスリですと、動物が五十匹なり百匹のうち何匹死んだという数字が出る。そういうふうに数字が出せる要素のあるクスリもあるのですが、確にわれわれが漠然と呼んでいる家庭薬というのは、そういう種類の医薬品の中に入らない。あいまいな言い方をしますと、合いグスリと言うんですか、それは私の身体に合っているからいっしょに使うんだというふうなことらしい、配置のクスリもわれわれのクスリもそうだろうし、何んかの原因で消え去ったものもあるかもしないが、ハッキリと医家向けのクスリとして開発されたものがレッテルをはり変えて出てきたものとか、あるいは戦後の医薬品異常景気で、それに便乗大量なマスコミで出てきたものとは基本的に違うんです。ただ高橋晄正さんみたいな人に、じゃあどこが違うんだと言われた時に答えられないのが、われわれの弱いところだと思うのですが。高橋先生なんかも最近いろいろ本を出されておりますが、先生の主張するところでは、昭和二十年以後の許可品目について洗い直せと言っておりますね。これは非科学的な言い方なんですけれども、二十年以前に、つまり無効無害主義の時に出された医薬品というのは比較的危険度が少なかった。その中できかないものはとうに消えさってしまっているだろうと、この二つの考え方に基づいて、現在あるものは害をなしておらぬじゃないか、現在の科学では追求できない効果があるのではないかと、こういう余地を残す言い方だったと思うのです。ですからわれわれがその医薬品の効果とか、その処方の問題とか新薬系統の大衆薬とか、あるいは新しく漢方薬プラス新薬とかひどいものが出ていますが、ああいうものについての追究に対するデーター……同じようなものを出すか出さないかという点で非常に損になると思うのです。販売の意味でも、広告の意味でもハッキリこのへんで皆さんが自覚していただかなければならないのは、われわれの持っている特殊性つまり先程言った二十年以前に許可された医薬品が、昔ながらの処方というものをできる限りの努力で、合理化し、均一化し、そうしてできるだけデーターをとろうとしてやってきたものだという自覚を持つとすれば、いろいろな問題で取締られた時に、そうでない医薬品と歩みを同じくするというのは、ぼくはあくまで不利だと申し上げておきます。

生薬の問題についても、ハッキリ申し上げて、漢方に便乗しまして、粗悪な原料を使ってインスタントコーヒーみたいな製造法で、そこにまた合いグスリを入れて何んとか漢方と銘うっている物が世の中に出ているために、われわれの家庭薬と言われている非常に安全で長年使用経験がある物が、同じ目で消費者から見られますから、それを広告の上でも、販売の上でもたたかれるという非常に不利な状況になっている。それを区別する意味の運動というものを、広報なりあるいは広告なり販売対策なりに出していかないことには、このままやはり黙って消費者運動なり、厚生省の歩みなりに同調してゆくよりほかにない。同調していった場合に私は大半の物は残ると思うんです。要するに家庭薬という言葉の意味の中に伝統家庭薬と申しま

すとおかしいですけれども、昭和二十年以前に許可を取った医薬品についての合法さというもの、われわれがわれわれの手でやらなければだめだと、その中に他社の医薬品の許可がまざりますと、これはあらゆる面で疑心暗鬼の目で見られるし、消費者運動のターゲットになってしまう。私はそれが心配です。私の希望したいのは非常に狭い希望ですが、他社の医薬の弁護はしたくない。ちょっと理論的に根拠がないんです。それともうひとつはあらゆるメーカーさんにお願いしておきたいことは、戦後二十年間にこういうケースが起こりましたけれども、われわれの伝統医薬品というものは根拠なしにみだりにいじりますと、必ずしもうまくない結果が出てくる。これはよく考えていただきたいですね。どういう理由かはいろいろあると思のうですが。ひとつにはわれわれの医薬品というのはクスリとして飲まれているだけじゃなしに、形状、におい、飲みごごちすべてについて愛好されているからということがひとつと、それから奇妙にカクテルのように中の成分のバランスがとれています。そこに新しくホルモンだとかビタミンだとかをぶち込んでせっかくの微妙な、うなぎのたれみたいに分析不可能なクスリが崩れてしまうんではないかと思うんです。ですからまあ防護し弁護する以前に、われわれの一本柱である製品に手をお加えになる時には、それこそ慎重に考えていただいて、今まで、例を上げるまでもなく思い出されると思うんですが、強力なホルモンを入れたり、あるいはちょっと医薬品に合わないことをやって形だけを新しくした製品は結果がおもわしくないんですね。その半面メーカーとしては、時代に取り残されてゆくといういらだたしさ、これは日本の医薬品の考え方が、戦後二十年間違ってきております。新しい物は何んでもいい物で、古い物は皆んな悪いという間違った教育をやりましたものですから、横文字で構造式が書ける者以外は薬剤師さんはいらなかった。これは大変な間違いですよ。天然物の中には人間の力ではわからない物があるし、非常にこれからも科学が進めば進むほど意外な物が再認識されるということもありますからね。別の意味で例えば広告を変えるとか、パッケージを変えるとかそういうことで近代化をなさって、処方についての近代化は簡単にやるということは非常にこわいことだと思うのです。日本の家庭薬というのは、発達の歴史がヨーロッパ、アメリカと違いまして、非常に特殊ですから世界でもこれはおそらく着目されるような形になると思うのです。中国でも残っていないのです。というのは漢方というのは一人ずつ処理しなければいけないものが、そこから根をはやしたにもかかわらず、大衆薬としていつのまにか変貌するというのは、やっぱり浅田宗伯先生とかシーボルトの知恵もあったでしょうが、漢方が入ってきた、そして蘭方が入ってそこに和方というものがあって、それに日本の和方の医者達が努力した結果手間を省くという思想と、いい物を作るという思想でできた、非常に日本独特の物だと思うのです。世の中で間違われているのは、生薬イコール安全という意識がある。これは私どもの薬事副委員長の今関さんなんかとても詳しいからお聞きになるといいけれども、生薬の中に使い方を間違えると非常に危険なものがあるのです。しかし一般の方が化学薬品に対する不信感から漢方薬のほうがいいぞというムードになっている時に便乗している悪得業者と、伝統的家庭薬がいっしょにされるということは、私は非常に遺憾に思いますね。そういうことで努力せんとね。

津村　御健闘をお願いして……だけれども難しいもんですね。

藤井（得）　それは難しいですよね。

藤井（康）　ほんとうは高橋晄正さんみたいな方が伝統家庭薬というものをどういうふうに御覧になるか、利害関係のない立場で伺える機会があったら、ぼくは非常に勉強になると思うのです。あの本を読むと、昭和二十年以前の許可品目について検討する余地はない。積極的な弁護はしてくださっていないけれども、どうやら、おめこぼしにあずかっているという感じがする。おめこぼしということは積極的にいいとは言えない、そのかわり積極的に大上段に振りかぶってバッサリと切るだけの悪いところもないというわけです。私は高橋晄正さん始めコマーシャルリズムにのった人達がバサバサ切ってゆく医薬品と同じグループと思われかけているという警告を発したいわけです。これは先の夢ですけれどもある意味では組合でもって簡単な研究設備のようなものをもって、難しい問題について、そこを通じて一メーカーでやる力がありませんか

ら、大学に委託研究などして貰ってひとつの問題についてやってゆくことも良いと思います。

中村　新川に組合があった時には試験設備があったわけですが、組合のものだったんですね。あの時は活用しないし、それほど皆さんが勉強しなくてはいけないという、何を勉強したらいいのかということがわからなかったわけです。それが今の言う近代化というか何んかで、要するにこういった点を勉強したいとか、知りたいとかということで、今でもぼく二社から製品の試験を頼まれているけれど、うちではできないものはこういうところに行ってお願いしたらいいんじゃないですかということで、御紹介したことがあります。そういうことで組合全体としてはもうちょっと勉強して……字引で言えば、どこのページをめくればわかるという面で、知らない会社がある。随分あるのではないか、こういうのはこういう試験所に行ったら試験してもらえるという、そういうのをある程度知らせるという。

中村源三氏

藤井（康）　今中村さんのお言葉で思いだしたんですが、試験所と申し上げたのは、それは将来の夢で、むしろ組合を通じてほかに委託するような機関と申し上げます。それ以前に今ちょっと思い出したんですが、生薬原料がとても乱れている。中共のルートが厳しくなって、品不足になってきた。例えば去年、一昨年と甘草の値段が上ってきた。この原因はチクロ禁止によって、安全な甘味料というのは、結局昔しょう油に使っていた甘草に求められた。アメリカあたりがものすごく買ったという、そういうようなことがあって、われわれもこれから真剣になってやっていかなければならないのですが、場合によるととんでもない高い物を買わされているところがわれわれのメンバーの中にもあるのではないかというようなことについて比較するというこのぐらいまでなら分担してもいいですからね。餅は餅屋ですからね。例えば麻黄ならば堀内さんのところで麝香ならうちでやるとか、そういうことをやってゆきますと非常に原料的に、これからわれわれの原料薬というのは難しい原料ばかりですから、ただし一言御警告申し上げたいのは、最近非常に内容が劣悪化してきている。人参なども上物が入手し難くなっている。端役でなくて主役の場合には、それこそ効能効果に影響することがあるし、そういうのを調べる方法が最近随分できてきております。

中村　朝鮮人参の時には新聞に載って随分問題になった。生薬の場合にも、ああいうようなことがいろんな問題としてあるわけですね。

津村　原料は非常に乱れておりますよ。私のところも非常にそれで困っておりますが。

竹村　ここで一言申し上げさせて頂ければ、広告が色々問題になってきましたのは、国民生活審議会の答申、国会での論議、あるいは消費者運動の昂まり等色々ございます。ここでよく考えなくてはならないことは、これらはバラバラの動きでないこと、つまり全体として時代の流れであるということがいえると思われます。太田広告委員長はよく「大局観に立って医薬品広告を考えるべきである。その立場で正すべきものは正さなければならない」と申しております。

いま広告で主要問題になっております点は、誇大、乱用助長、品位等に関するものと思われますが、これ等の点に特に留意しながら正しい情報の伝達に努めなければならないと思います。もちろんどうもよく分らないという点は、納得いくまで指導当局にもお伺いすることは当然と思います。いずれにいたしましても、一部でいわれておりますような広告の量的規制を招くようなことは、是非避けなければならないと存じます。

中村　広告の問題においてもですよ。規制が強まったのは、官庁がそれだけ勉強をしたいということで、勉強しているんだから、メーカーも勉強しなくては取り残されるのがあたりまえじゃないかというのが、官庁の態度ですよね。でも組合員全体からすると、取り残される部類に入っている人も、中にはおられるのじゃないか、こういった点だけはちゃんとしなさいという指導というのか役所でやるようなことかもしれないが、ある面ではメーカー同志でニュースを流すということも必要ではないかと思うのですが。

堀内　それでは何ですか、小さい会員会社から組合のほうにこういう

ことがわからないのだけれども、薬事委員会なり広告、販売委員会なりで調べてくれないかという……。

園部　そうですね。承認なんかの場合、たまたま紹介というか、こういう物を始めたいのだけれどもというのは、たまにはありますね。

園部 明 氏

堀内　相談のあった場合には適切な指示をして上げるわけですか。

園部　間違ったら困りますし、まあ厚生省なり都庁なりに相談しに行ってやっております。

中村　それから逆に御宅はこういう物でやり玉に上って、ブラックリストに上っているから、少しその前に気をつけたほうがいいということも随分あるのではないかと思うのですが。

園部　ありますね。

藤井（康）　そういうことを言っていいものかどうか、よく薬事委員会はベテランの方がいらっしゃるから議論に出るんですよ。そうすると言っちゃ失礼だろうという考え方、余計なお節介だという考え方がある。今後起こることはハッキリしておりますので、気がついた時に御注意申し上げるという……。

中村　そういうニュースは早めにね。

堀内　処方の洗い直しという問題はどういうことになるんですかね。

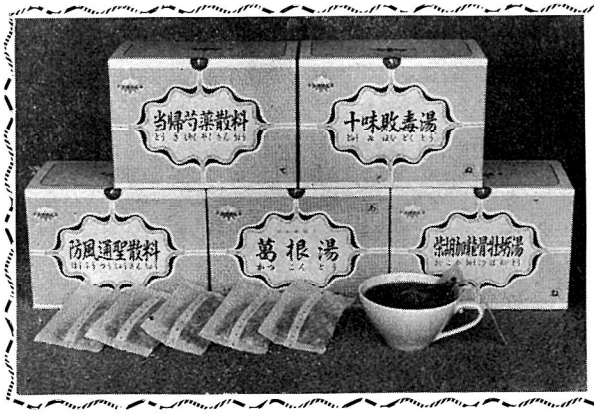
津村　大たいアメリカの真似をしているということからゆくと、軟化してきているのではないかという感じがしますね。ひとつはこんど委員長になったエドワーズという人が温厚な人で、良く業界の意見も聞いて実際に合った方法でいこうということで、名を高めようという野心満々から代りました。スタッフの中には厳しい人もまだ残っているから一挙に態度が変るということはないだろうけれどそういう方向に向いているらしいということが言えると思います。

堀内　この前スイスの薬業事情を現地でしらべた時、五年ごとに処方を洗い直すということがありましたね。これはなるほど理屈に合っているなアと思って聞いたんですがね。まあ当面する一般薬の問題と言いますけれども、広くなってしまいまして、二時間、三時間たってもきりがないものですから、今皆さんのお話のように、生産面でも販売面でも、又大衆からも、あらゆる点でクスリというものがいろいろ狙われています。それは今までいい目を見てきたから、ここで反動的にやっかまれているのだということもあるんでしょうけれども、何んにしましてもあまり明るい話はないわけです。まあそういうことでこの間も大衆薬懇談会ですか、ああいうものを作って大衆に家庭薬の存在価値をもう少し認めさせる。正しく認めてもらうという運動も考えられたわけですけれども、これも立場立場によって内部でいろいろの問題が出まして、まだハッキリした姿が出ていないようです。そういうことを考えますとまずわれわれ家庭薬の組合というものは、この中だけでも団結を一層堅くして、全国一般薬協議会を中心に、全国的な運動というようなものに対処してゆくということだと思います。大分時間も過ぎましたので、このへんで一応、今日は結論も出ないようですけれども、終りにしたいと思います。お忙しいところありがとうございました。

新製品紹介

千葉漢方医薬新発売

千葉実母散本舗では、この度伝統ある正真漢方二十六処方を選び技術と経験を活かして、振り出すだけで成分の抽出が十分出来る手軽な、ティーバッグ方式の漢方薬を製造発売され、服みよい漢方薬として、好評を博している。



西ドイツ見聞記

太田　昭

昨年十月五日JAL北廻りで羽田を飛び立った。今回の旅行の目的は西ドイツのバーデン・バーデンで開かれるヨーロッパ大衆薬会議への出席と、西ドイツ、スイス両国の薬業市場の視察である。一行といっても浅田飴の堀内君との二人旅なので極めて気は楽だ。

古い城と大学とゝケティーク のハイデルベルク

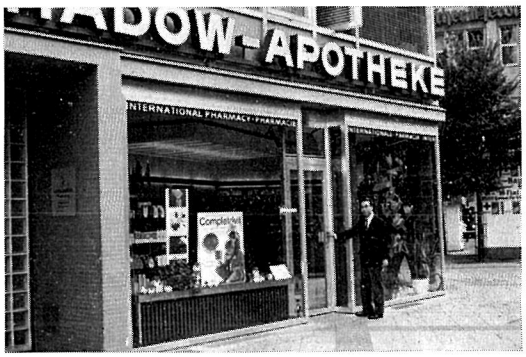
西ドイツは悲惨な敗戦から見事な立ち直りを見せたヨーロッパ随一の経済大国であり、スイスは日本の約九分の一の面積の小国であるにも拘らず世界有数の観光国として又工業国として立派に繁栄しているのである。いずれも日本と同じような条件下で成功している点は興味深い。しかし日程も短かく我々の語学は極めて貧弱なため、見聞記は感覚的なものになってしまった点はご容赦願いたい。

美しい国

フランスは芸術の国、スイスは自然美の国、ドイツは工業の国とは普通いわれているところである。しかし今回の旅行ではスイスは工業の国ドイツは自然美の国といった方がよいのではないかと思った位である。

西ドイツの北の玄関であるハンブルクに空港から市の中心迄車の中から見た景色は、緑の牧草にホルスタイン種の牛、ニンフが住むかと思われる大きく美しい森、クリスマスカードに出てくるような赤屋根の家、そこには想像していた工業国の姿はなく、のどかな美しい眺めがあったのである。このような風景はアウトバーンを走る車の中からも、がっしりとした国有鉄道の車窓からも到る所で見ることが出来た。緑がつぎつぎと造成団地や工場に変って行く国に住む者にとって何と羨ましく眼に映ったことか。

西ドイツの面積は日本の約三分の二で人口は約六千万であるから人口密度は日本とそう変らない。しかし国土の約八割が山地の日本と違って山らしい山もなく殆んどが平地かゆるやかな起伏の丘陵なので住宅利用面積は大変な違いである。その上台風や地震のような天災は一切ないから自然環境は全く恵まれているといってよい。美しい森を構成するタンネンバウム（樅の木）の巨木、小川のほとりの大柳、或いは美しく秋を色どる公園のモミ、ブナ等の大樹、すべての木という木は日本の三倍位のびのびと大きい。町には何百年の歴史を持つかと思えるゴシック調の教会の瀟洒な姿が見られ、村はずれの大壁の家までが自然と心憎い調和を保っている。ドイツ人の環境づくりに対する執念は国土のすみずみまで見られるのである。日本も経済大国といわれる今日自分達の手でアジアの一角に美しい国づくりをすべきであろう。



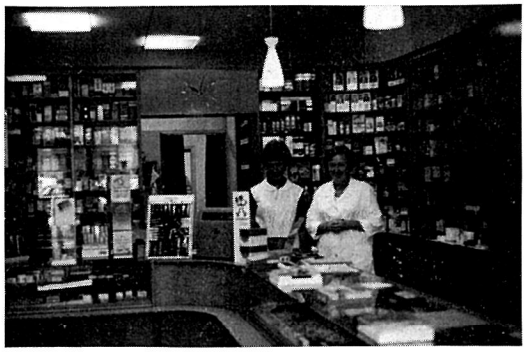
清潔で美しい薬局（アポテーケ）のウインドー

公害の少い国

ドイツ人の清潔好きは世界的に有名である。街も家の中も神経質過ぎる位きれいに清掃されている。ドイツでは不潔な人間は野蛮人ということらしい。在独日本人の評判はイタリー人やスペイン人よりはよい。最近は日本人の数がふえるにつれて日本人株が稍下落したそうである。それというのも独り者が多い故かルーズとなり不潔になって来たからだときびしい批判であった。

西ドイツで下宿すると三日に一度は外部から掃除屋がやって来る。金

が掛るので断りでもすれば下宿屋のマダムが大変なけんまくで「部屋をきれいにしないのなら出ていって貰いましょう」というそうだ。感心することは街を歩いていて自動車の排気ガスの臭いが殆んどしないことである。黒煙を上げている車も見かけないし、アクセルをやたらとふかす車もない。各人の公害に対する自覚とエチケットは徹しており、町の到る所に見られる緑地帯と共にスモッグ化を防止する大きな要因となっている。西ドイツにおいても廃棄物による種々の公害はあるそうだが、それも日本であればまだ公害のうちに入らない程度らしい。


落ち着いた格調の高い薬局店内

このようなドイツ人の清潔好きは国民性であるといえばそれまでだがモラルとエチケットに対する永年の訓練が住み心地の良い環境をつくり、公害を未然に防ぐ結果となってあらわれているのである。

勤勉な国民

ライン河とモーゼル河との合流点にあるワインの町コブレンツに一泊した。駅前のお粗末なホテルである。フロントには会計係からポーターまで何んでもやってのける小柄な親爺が一人いるだけである。万事よくやってくれるので不自由はない。ドイツ人はサービスは職務の一部だと割切っている。チップは請求しないし、チップを渡すと申し訳けなさそうに恐縮して礼をいうので、こっちの方がびっくりする。朝七時、部屋の窓越しに外を眺めていると駅からはもう学生やサラリーマンが続々とはき出されて来る。工場は七時半、オフィスでも八時に始まる。終業は大体四時半か五時である。時間は持ち前の合理性を発揮してむだなく時間までみっちり働くのだから質量からいって生産性は立派なものである。このエネルギッシュな仕事振りの源は彼等の猛烈な食慾であろう。ルフトハンザ勤務の日本人スチュアデスがアメリカ人もよく食べるがドイツ人は最高だ、出てくるものはなんでもきれいに平らげてしまいますと感心していた位である。GNP第一位のアメリカ第二位のソ連第四位の西ドイツ、いずれも劣らぬ健啖家揃いである。GNPイコール食慾とすれば第三位の日本人はもっとモリモリ食べなければいけない。我々も商売柄優秀な健胃消化剤をつくって日本のGNPに大いに貢献しよう、等と勝手なこじつけをいったら怒られるかも知れない。

個性のあるムード豊かな薬局のインテリア

筋金入りの頑固さ

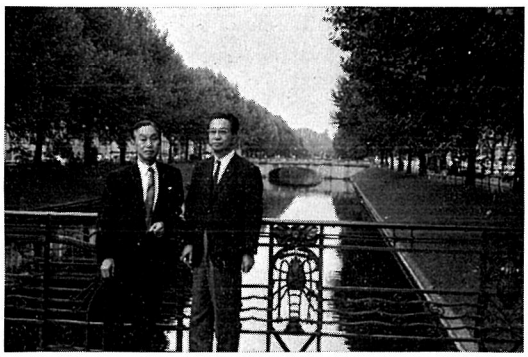
ドイツの歴史は無数に点在する古城が物語るように地方分権主義を貫いた地域社会の歴史といってよいであろう。現在でも九ケ国に囲まれているドイツは昔から絶えず軍事的に経済的に外国からの脅威にさらされていたのである。この脅威から永年自らを守り通して栄えて来たものは、十四世紀のハンザ同盟にも見られる如きドイツ国内各都市の領邦化された軍事力と経済力なのである。今日でもその伝統は個性的な強い自治権を持つドイツ連邦共和国（西ドイツ）の十一の州として残っているこの歴史的背景からもドイツ人に強い自己主張いわゆる頑固さがあることは当然といえよう。単に北国特有の頑固さではなく筋金入りの頑固さなのである。

今回の訪問ではドイツ語がわからないので幸か不幸か「頑固さ」の真髄に触れることは出来なかった。しかしライン河沿いに案内してくれたひどいドイツなまりの英語をしゃべる若い運転手はその見本かも知れなかった。彼は非常に親切ではあったが昼食の場所選定と運転料金について一歩も退かぬ主張の強さを示し私はその片鱗を窺うことが出来たのであった。ドイツ人の性格は日本人と

共通する所が多い。どちらかといえば保守的で家庭的である。今回の旅行でもアメリカやフランスでは感じられなかった親近感を何となく持つ事が出来たのであった。

アウトバーン

アウトバーン（ハイウエイ）はドイツ人の生活の一部である。ドイツ国内に縦横に張り巡らされたアウトバーンはこの国のみならずヨーロッパの血管である。アウトバーンはヒットラーの遺産であるといわれる位だからその完成は大分前になろう。それ故か日本のようなやっかいな料金所等一切なく、いつとはなしに入りいつとはなしに出てしまう。ドイツ特有の広々とした平地やゆるい丘の地形なりにどこまでも続いている走っている車がのどかな田園風景の中にとけ込んで長い滑り台をすべって行くような錯覚にとらわれる。日本の高速道路のように山を切り開きあるいは低地に高架をかけ外側とはフエンスをもって断絶するかの如き感じは全くどこにもない。総工費も地形なりだから定めし安上りであろう。スピード制限は全然なし。普通でも時速一三〇キロ位で皆のっており、たまに二〇〇キロ近くで猛然と追い抜いて行く車がある。走行マナーは徹底しているしそうでなければ大事故が頻発するであろう。法規を守るというより各人がルールとエチケットを守っているといった方がよい。面白いことは皆自車の性能を熟知しているためか自分よりスピード性能の上の車が後から来ると必ず横によけて追越させることである。オペルよりベンツ、ベンツよりポルシェといった具合である。日本のように分不相応な運転は絶対にしないし追越線でのろのろ走っているようなこともない。ヨーロッパのドライブマナーは日本より五〇年進んでいるといわれている位だ。だから事故も少い。危険なのは夜ふけの大型トラックと冬場の凍結によるスリップだけである。道路標識も完備しており知らない町へ行く時にもアウトバーンの道路標識とSTADTMITTE（町の中心という意味で町に入ったときこれに従って行けば中心街に行ける）の標識さえ見て行けば地図はいらないのである。アウトバーンはドイツ人の合理性とマナーの象徴ともいえよう。


きれいな空と水・公園のようなフランクフルト

格調高い薬局

アポテーケ（APOTHEKE）ドイツ語で薬局（ファーマシー）という意味。日本の薬局と較べて極めて格調が高い。薬局店主は商店主としてでなく薬剤師として威厳を保っている。薬局の構えも堂々として店内のレイアウトはゆったりとぜいたくに出来ており、店によって十分個性が生かされている。シュツットガルトの全独医薬品展示会を見に行った時も薬局内レイアウトのモデル展示が色々行なわれていた位である。客とは銀行のように立派なカウンター越しに応接する。アメリカで処方箋なしに自由に買える薬をオーヴァー・ザ・カウンター（O・T・C）と称しているのもこのへんから来ているのだろう。とにかく薬を食料品や雑貨のように売る感覚は全く見られない。人間が何千年の昔から今日まで得た経験と知能によって発見しあるいはつくり出して来た小さな貴重品を、誇りと責任をもって提供するのだという感覚である。薬局では一切安売りは見られない。顧客に対する価格サービスといえば全体の勘定から2％引するのが限度らしい。

スイスの薬局で薬を買って見て感心したことは、すべての製品にメーカーの責任において定価が印刷されていることであり、しかもその価格通りで売られていることであった。

西ドイツの各地で買った薬を調べて見ると生薬を配剤した製品が多いことが分った。この国でも自然薬品が重要視されていることを物語っている。フランクフルトの目抜き通りの立派な薬局は店の半分が生薬製剤コーナーになっているのには驚いた次第である。

包装箱は意外とお粗末であることは肝心な中身以外には金をかけないというドイツ式節約の現われであろう。一般的に見てドイツの商品は実用一点張りである。ただ半永久品であるインテリアルや建具には中々金がかかっておりよく出来ていることはドイツ人が如何に住に対して神経

を使っているかを示している。華やかな日本の消費主義的生活と対象的な徹底した合理主義的生活である。

西ドイツにはドラゲリー（ドラッグの意）は別として約一万軒の薬局がある。日本と較べて人口割店数は二割程度少ない。医薬分業完全実施の故もあってか普通月商約五〇〇万円というからたいしたものである。日本では医薬品月商五〇〇万円以上の薬局は全体の約2％に過ぎない。さすがドイツは薬業王国であると感嘆した次第である。ドイツでは製薬メーカー、卸、小売が三者一体となって発展していると聞くが、この国の徹底した合理性とモラルによってこそそれが可能だといえるのである。

（太田胃散・副社長）

薬と共に四十有余年（承前）

松田金之助

北満の彼方で始まった所謂芦満事件に端を発した戦争は次第次第に拡大してまいりましてそれにつれて軍のみが優先的になる公算がはっきりしてまいりました。

毎日町内から出征兵士が日の丸の旗で見送られて行かれる戦局様相が変わってまいりますといつ出征したか判らない様ひっそりと出征する様な状態となりました。軍に対する納入先きも近衛歩兵第四聯隊より更に近衛師団司令部へも納入を許された間口二間、奥行四間の店舗の屋根看板に陸軍御用と書き入れた当時の私しは得意満面という所でした。

軍の納品は何時発注があるか判りません。発注即納入という事で人手不足を来たし予備として郷里の方より数名を雇い準備致しました。しかし乍ら本来のすがたである卸はもともと家庭薬卸の出身である関係で注文品は家庭薬が殆んどを占めていました。参考迄に三十有余年前の有名品を列記して見ましょう。

守田宝丹、守妙、立効丸、保命湯さふらん湯、五香湯、命の親玉、美神丸、ハルナー、清心丹、名倉膏、妙布、ユキワリミン、コロイゲン、テーム水、ヨージ水、ターブ水、全治水、ピュア水、精き水、壮眼水、神レイ水、オートミン、ビオートミンチクノール、穴山せき一服、〇セキ薬、一六散、峯岸淋丹、トリート、ベール、田中円シッシン膏、大木ママー、和光堂ボンボン、滅蒼散、毒滅等全く数え切れない程でした。昭和生れの方には耳馴れない銘柄ともいえましょう。こうした反面新薬と違い何十年何百年も生き抜き戦後も盛大に続けておられる家庭薬メーカーさんも沢山おられます。

例えば西ではロート、大学、七福、仁丹、健の丸、今治水、命の母、セイロ丸、サロンパス、メンタム、ノーシン、田虫チンキ、元六ウイロウ、ノーソ、リスカン、ミクロゲン、浅田アメ、竜角散、太田胃散、救心、ピーマン、君が代、ビゲン、ノボピン、あせしらず、毒掃丸、タコ吸、ミナトシキ、木谷本法、ローゲン、シッカロール、養命酒、わかもと、トリブラ、スマイル、鼻療、モンゴール、バゼット、ミクロゲン、フマキラ、アース、胃健錠、実効散、回効散等時代は変るとも薬は今も昔も深く通ずるものがあります。当時定価も十銭、二十銭が普通で、一円、二円となりますと高額もよい所で普通の薬局の一日の売上げが十円という薬局がかなり多くこれをこの頃タニ〇薬局といったものです。

この様に薬の御紹介をしましたが人手不足なので地元の芝地区を固めるべく朝の注文は午後配達というサービスこのサービスになくてはならない調井敏兼君この様な事は今では到底出来ませんが自動車ラッシュもなく自転車やリヤカーに精一杯積んで朝は七時より夜は十一時迄働くすがたを今も思い出します。時局は益々重大となり門鑑一枚と軍のタスキで発注次第軍の方へ届けなければならない当時青梅から御手伝を雇いま

元芝薬剤師会長
内山広吉先生

した。薬局に勤めた事のある御まささんという御手伝は男勝りで軍の納入にもひと役買って専ら忙がしく働いて呉れて助かりました。男手の都合の悪い時には家内も近所の聯隊に出かけたものです。

朝の注文はその日に届けるので車の手配は仲々出来ず大八車やリヤカーで現在のソビエット大使館の前の坂は非常に急で家内に車のあとおしをさせた事も今は夢ものがたりです。何といっても当時の卸店は卸やの数も少なく卸に対する小売店メーカーの道義も厚く御互いの立場を尊重しあいよき時代でありました。

その頃の本町勢は鳥居、中滝、丸元、大翌、藤田等家庭薬は玉置、大木、福井、中田、国友、西村、林貞一、大木分店、川手、石沢、竹内、片山、黒部という所でこうした卸屋さんの中をチョコチョコ飛び廻るマル金商店は荒地の中に根を張る雑草にも似ていた姿でした。

現芝薬剤師会々長
尾崎文雄先生

戦局は益々拡がり殆んどの食料品、衣料品がすべて統制がしかれ野菜、魚肉類など自由に入手が出来なくなり物の尊さは十分味う事が出来ました。近所の方々と無い物を分けあう嬉しさ楽しさは又格別でした物資の統制はやがて薬業界にも押しよせてまいりました。

（つづく）

（ノボピン本舗・社長）

趣味と功徳

飯島明正

碁を知ったきっかけは大正十年頃で、かれこれ五十年ほどになる。

郷里の小学校改築工事に来ていた中年の大工が退屈凌ぎに教えたもので、手作りの碁盤によせ集めの石が、飯場にふさわしく今更懐しく思い浮べられる。

毎日、日が沈むと迎えに来て背負ってくれたものだが、やがて出向いて行くようになっていた。

子供に教えるのは大変な努力であったろうが、あきもせずよく教えてくれた。

七、八カ月で相先で打てるようになったことからして師匠の腕もたいしたものではなかったのであろう。

この師匠は格言を口にし乍ら打つくせがあり、数限りなく繰返していた中に

攻めるは守るなり、カランで攻めよ、二目の頭は見ずハネよ、カス石逃げるべからず、

碁打に時なしなど私の碁風はこれら格言からも感じられる。

肉を切らせて骨を切るとでも言うのかまことに激しい碁になっていく

どちらかの一方碁となり作り碁はまれであった。

梅檀は双葉より芳しで深更に及ぶ日がつづくのである。ふと気がつくと私を凝視している慈母の視線にふれ子供心にもなんと言う親不孝であろうと感ずるのであるが、その眼は、責めるのでもなくむしろ慈愛に満ちていた。

迎いに来た母に心ひかれつつも中途でやめる意志がなかったから立派である。

二十才の夏に急逝したが、賢婦であった母は好きなことはさせたい反面心淋しく思い悩んだであろうと今更慚愧にたえない。

興のれば時を忘れ鶏鳴暁をつげなお打ちてしやまんの気魄あるもむべなるかなである。

やがて新校舎が完成して「とくさん」という師匠は何れともなく旅立ってその後の消息を知らない。

それから十五年、身近に打つ人もなく忘れかけたころ、会社に囲碁部が誕生入部して幹事となり渋谷先生（当時五段）を招へいすることになり熱心なご指導のもと一年間の精進と努力は大変なものであった。

四角なものは碁盤に、丸いものは碁石に見えるほどの熱の入れようで、急激に上達していった。

とは言うものの当時三級程度の私を初段に推薦してくれた先生の言葉は忘れ難い。辞退した私に「受ければかならず実力もともなうものだ」と少々照れくさいがとに角初段の免状を受けることになった。

「水は方円の器に随う」とか、よい環境と修練の場に恵まれたとは言い、いつとはなしに、どこで打っても初段で通るようになるのだから不思議なものである。

碁に熱中することは、もろもろの雑念からはなれ心の転かんが計れる

が、誠に大変な悪癖に悩まされている、と言うのは絶えず煙草をふかしたくなり、ところかまわず灰を落すことである。

親しい碁友宅では大きな灰皿を左右に並べたり、絨氈の上にござを敷いたりするほどで、このことだけはなんとか克服したいと努力中である。

家庭薬碁会にお仲間入り出来、初参加から入賞するなど、こよなく碁を愛する私の人生に花をそえてくれる場である。

縁は異なもの味なもの生来運動神経のにぶい私がゴルフを始めたのも碁会のとりもつ縁で市川兄のすすめで入会したのが病みつきで持ち前の気性から雨の日も風の日もクラブを振り続け、練習にはげむのである。清らかな大気のなか緑の広場をかけめぐり、思い切ったプレーが出来る喜びを感ずる昨今GCには万障を尽くって出席しているがロングに秋山兄、ショートに小原兄の適切なご指導を得て、いく度か上位入賞するなど、まことにしあわせである。

そして知らぬまに思いもかけぬことが現われたのである。

八十五キロの体重で、高血圧と糖尿病に苦しみ、食餌療法、服薬など苦しい闘病を続け、主治医は運動をすすめていたが適当な方法もなかったものであるが、体重、血圧は正常で体調は青年を思わせるほど快適となり、永年苦労をかけた古女房に人生のしあわせを感じさせることになった。

まことにゴルフの功徳で日常の仕事に張りが出るのも当然である。

老木の花咲くとか、この上は最大の栄誉であるTKGC優勝を目ざして精進し、後より続くビギナーのはげみとしたいものである。

（宝興産・取締役）

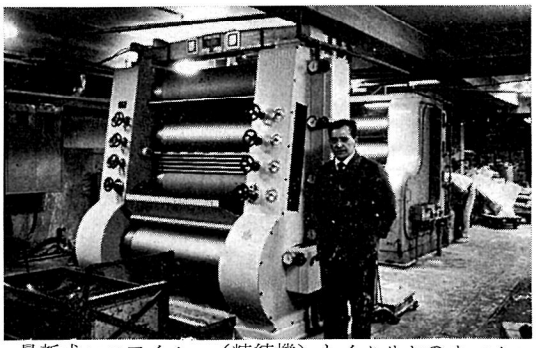
近代工場めぐり（7）

中村化成産業（株）

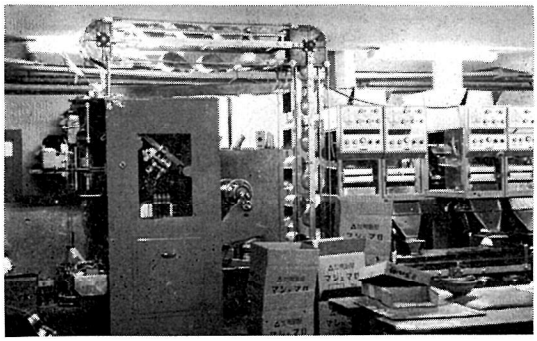
品川区東五反田2—11—9

社長　中村源三氏

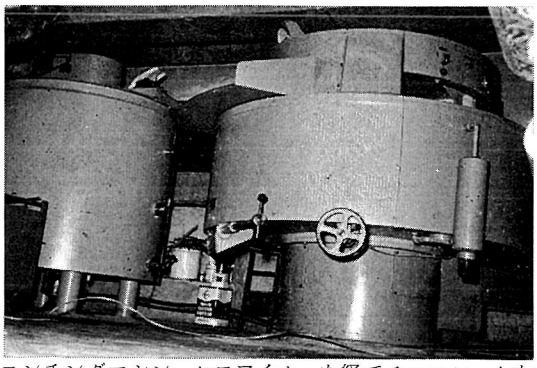
五反田駅にほど近く、中村化成産業㈱五反田工場を訪れました。敷地は約四〇〇坪、四階建のクリーム色の鉄筋コンクリート造りの本工場と、医薬品工場、事務所が明るい感じで迎えてくれます。その明るさの秘密は後ほど判りました。若く、登山好きの、明るいスポーツ社長を芯に、平均年齢二六～二七歳という活気が溢れているのでした。会社そのものも、年齢が若くて、社長中村源三氏が大学在学中に、資本金一八万円でスタートしたといいます。それが、現在は六〇〇〇万円の資本金にまで伸びています。昭和二三年、設立当時は数種の医薬品の他に、駆虫剤アンテルミンチョコレートが製造発売され、現在の大を成した基となったのです。昭和二八年、深川扇橋から現在地へ移転したのを機に、チョコレート技術を活用した食品部門をひらき、多角経営に積極的に乗り出しました。途上、困難にぶつかる度に、社長の明るい性格は、正面から取組み、これを解決して、翳を残していません。中村社長のモットーは（量より質）です。そのため、研究には力を入れ、研究室の充実は私の目を見張らせたほど、高いレベルのものです。全館冷暖房という設備は、チョコレートという特殊な温度技術を要求される製品のためでありましょうが、とくに衛生に細心の注意が払われている証左です。工場に一歩入ると、南国の太陽を思わせるカカオの甘い香りが身をつつみます



最新式レフアイナー（精練機）とイタリヤのカールモンタナリー社一級技術者ミスター・ピン



自動秤量製袋包装機

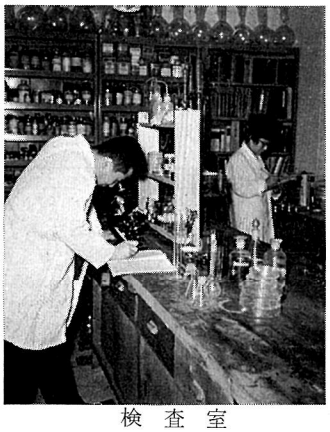


コンチングマシン　レフアイナーを経てチョコレートを更に練り上げチョコレート特有のなめらかさを出す

す。二トン入りのコンチェやタンクが並び、片側に成型室があり、グラニュ糖粉砕室とメランジャー（混合機）、三段ローラー、五段ローラー、コンチェマシンが快く唸っています。この堂々たる機械はイタリアのカールモニタナリー社製です。

二階はチョコレート成型室で、一階から送られてくる液状チョコレートを自動温度調整によって、流型、クーリングトンネル、自動包装とオートメーションが見事に、無駄なく流れて行きます。三階は包装室で、自動包装が高速に、能率を上げています。この機械はイタリア社の高速包装機です。四階は糖衣とマシマロ製造となっています。私は今までうかつにも、マシマロを造るのは、一箇一箇、型へ流して固めるのだとばかり思っていました。ところが、ここでは、仕込から成型、自動秤量から製袋包装まで、スピーディにあっけなく造られてゆきます。私の大好きな、叙情的な味と香りを持つマシマロが童話の世界のように、美しい夢を見ているように出来てきます。ここの機械は、メインは米国製ですが、肉をつけ、血を通わせた技術は一切自社だけで作り上げたのだそうです。というのは、富田工場長は日大工業化学科の出身であり、社長も日大土木工学科出身の技術家同志でしかも、同期という緊密なコンビであるからこそ可能だったのでしょう。なお、当社は労務管理について、学歴、年齢を問わず、誠実と能力のある人材なら、どしどし登用する方針であるとのことです。道理で正午のサイレンが鳴っても、条件反射的に職場をはなれる人はいません。時計のない世界の人のように、熱心に仕事をつづけています。中村家はもともと船会社の血筋です。会社経営の舵をとる腕も、度胸も冴えているなあと、感嘆しながら工場を辞去しました。（玉）

包　装　室



検　査　室

槐（えんじゅ）のうた

玉置石松子

東京の街路樹を多い順にならべると、次のようになると思います。

スズカケ、イチョウ、サクラ、ヤナギ、エンジュ、アオギリ、トウカエデ、トチノキ、ケヤキ、ユリノキ、トネリコ、ポプラ、アキニレ、センダン、アメリカフウ、サイカチ、クワ。

このどん尻の桑は、八王子駅前通りに植えられてあります。魯桑（ろそう）でしょうか、立派な樹姿をしています。ご承知のように、八王子は織物の町ですから、桑は八王子のシンボルのわけです。ですから〈桑都〉というゴルフ練習場があったり桑の名のついたお酒もあるくらいです。でも、桑畑は今ではだいぶ隅の方へ追いやられています。織物といっても、ウールが主だそうですから、桑の需要が減るのは当り前なの

でしょう。

並木の三位の栄を担っていたサクラは、小金井を通るたびに、目をそらすほど哀れです。天寿を全うしたのならまだしも、トラックに枝を折られ、有毒ガスにうちひしがれています。まっ正直な樹木をいためつけておいて、公害もないものです。

昔は、下町の空気はよごれていて山の手の空気はきれいだ、といわれたものです。今は、下町もへったくれもありやしません。息を吸うたびに、どろどろと毒気が肺に落ちこむようです。

＜公害と東京都＞という資料を見ますと、ふっ素ガスにやられた葉は周辺から枯れ、亜硫酸ガスにやられると、点々と葉が褐変するのだそうです。身近にこのような異常を見ますと、人間の生命を護ってくれた植物を、こんなにひどくいためつけてはね反りがないとは考えられないのです。

昔は、ゴミというものは、土に帰るという謙虚な素質があったものでした。それが、プラスチックという怪獣が人間の手でつくられてから、地球を喰いちらすようになった、と私には思えてなりません。

話を戻しましょう。日本橋のたもとにエンジュがあります。せかせか行く人の目には触れない、小さな花がほろほろとこぼれています。翡翠いろの、ヒョウタン形をした実が風に揺れているときは、きっと望郷の歌をうたっているのです。

西瓜　建林静枝氏

ところで、本誌に太田昭氏が西ドイツの見聞記を寄せられました。詩情をたたえた筆致です。ドイツは工業の国というよりも、むしろ自然の国、自然を愛する国だというお話です。モミの大樹を見るにつけても、故国の経済の高度成長のアンバランスに想いを寄せる氏の活眼に敬意を表します。爽やかな文章に魅せられつつ、私はドイツの自然を見たい、そして胸を洗いたい、と切に思うのでした。

友田製薬株式会社の元社長であり当組合の相談役でいらっしゃった友田銈三郎様が、この五月二十三日にお亡くなりになりました。

戦前、戦後を通じ当組合の事業に尽力されたことは組合員一同の良く知るところであります。

教養深く、穏健なご性格は激動する今日の業界にあって、指導者として洵に重要な存在でありました。

数年前、勲四等旭日小授章を受けられ、このたび従五位に列せられたことは、ご功績の大きさを物語っています。

再び接することのできない温顔を偲びつつ、謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

●新年度に入り、先づ当組合の活動に就いて、会員各社のご認識を得ることを目的として、八委員会の報告と方針を中心題目に、座談会を開きました。当然現在の薬業界の苦悩を反映した重苦しいものになりましたが、組合員は、一層団結して難関に当らねばならないと話し合いました。

●本号は多くの方の執筆を得て、残稿も出るなど、創刊以来初めてといってもよい様な現象が起きました。組合員各位のご熱意が現われたものと感激いたしました。弘報委員会は新委員、救心の比留間氏を得ましたし、これからも一層充実した紙面を作るべく心を新にしております。

尚玉置弘三氏にはカットの絵などいつも勝手なお願いをしておりますが、ご多忙の中を快くご協力頂いております。厚くお礼申しあげます。

●新製品紹介の記事掲載ご希望の方は原稿と商品写真をお寄せ下い。

（ほ）

東京都家庭薬工業協同組合会報
かていやく　第十九号
昭和四十六年七月五日発行
編集・印刷・発行
東京都家庭薬工業協同組合
東京都中央区銀座東八丁目十五番地二
電話（五四三）一七八六